

ちりりんロードを歩いて知林ヶ島へ

知林ヶ島は鹿児島湾に浮かぶ小さな無人島で、愛のシンボルとなっている。1 年のうち 4 ヶ月間、この 3 キロの島は薩摩半島から 800 メートルの海を隔てている。しかし、条件が整えば、この小さな島と本土をつなぐ砂州が海から現れ、狭いながらも歩いて行ける地峡ができる。この砂州はちりりんロードと呼ばれている。

鹿児島湾は、海岸線から急に落ち込んだお椀のような深い形をしたカルデラである。知林ヶ島は湾口に位置し、水深は比較的浅い。3 月から 10 月にかけて、黒潮が湾内に流れ込み、知林ヶ島と本土の間に砂を堆積させます。冬の間、黒潮の流れが弱まると、卓越する北風が砂を沖に押し戻し、砂州が消えて島と海岸が再び離れる。

この島のロマンチックなイメージの一因は、砂州沿いで見られる貝殻にある。モクハチアオイ (*Lunulicardia retusa*) の貝殻は、同じ大きさの貝殻を 2 つ合わせるとハートの形になる。地元の言い伝えによると、同じ大きさの貝殻を 2 つ見つけると恋が叶うと言われている。暖かい季節には、2 枚の貝殻を見つけるためにチリリンロードを歩く姿が見られる。